

震災と復興 心境述懐

生田神社（中央区下山手通）の加藤隆久名誉宮司（80）が、雑誌への寄稿文や対談、論文を収録した「よみがえりの社と祭りのところ」を出版した。神道の精神や源平合戦の歴史などを解説。阪神・淡路大震災で拜殿が倒壊し、一時は絶望感にとらわれながらも、地域の復興につなげようと再建に尽くした当時の思いもつづった。

（斉藤正志）

寄稿文など一冊に収録

加藤名誉宮司は、1986年に同神社の宮司に就任。28年間務め、今年6月30日に退任、名誉宮司となった。

新刊では、阪神・淡路大震災時について「私自身も鉄槌で殴ら

れたような落胆と喪失

感に襲われ、激しく意気消沈していました」と心境を紹介。亡き父の励ましの声が聞こえたことを機に「神社を復興させる事は、神が仕事を与えてくださっ

「助け合い精神 伝えたい」

たのだ」と思えるようになり、迷いを振り切ることができたという。

拜殿倒壊後も毎日の祭典をおろそかにせず、「お互いに助け合う精神である『祭り』によって人々は勇気づけられ、明日への希望に満ちた活力をもらう事ができる」と記した。

また江戸時代の淡路島出身の国学者、鈴木重胤を紹介し、熊野那智大社などについての研究論文も収録。文学博士としての知識や教養も披露している。

加藤名誉宮司は「日本には人との絆、寛容の心、助け合いの精神がある。若い人に伝えたい」と話した。

四六判、380頁。
2600円（税別）。
生田神社 ☎078・321・30051

「よみがえりの社と祭りのところ」を出版した加藤隆久名誉宮司 生田神社

